

2) ワカサギの資源調査の概要

井出充彦

【目的】ワカサギの資源動向を把握する。

【結果】

1. 平成9年の産卵量および産卵河川(平成10年は調査とりまとめ中)

① 主要河川における産卵量把握の試み

- ・ 平成9年2月10日～4月8日までおよそ2週間ごとに、主要11河川(安曇川、石田川、知内川、大川、姉川、天野川、芹川、犬上川、愛知川、野洲川、和邇川)においてアユの産卵調査と同様の方法により産卵量調査を行ったところ、天野川、芹川、野洲川の3河川を除く合計8河川でワカサギの産着卵が確認された。産着卵が確認された各河川のピーク時の有効産着卵数(生卵数)の合計は約13億粒と推定された。これは平成8年秋のアユの同産着卵数の合計84億粒に対して1/6に匹敵する値であった。
- ・ 知内川における平成9年のピーク時(3月27日)の総産着卵数は5.3億粒であり、平成8年のピーク時(3月14日)の総産着卵数2.8億粒の1.9倍であった。

② 産卵河川の増加

- ・ 平成8年3月は主要河川とその他の中小河川を含む合計11河川での確認であったが、平成9年3月には合計13河川に増加し、さらに一部の湖岸でも確認された(図1)。

2. 仔稚魚分布量

- ・ 5月夜間角形稚魚ネット(アユ仔魚用ネット)曳き
平成8年は北湖北部10地点で35尾の採捕であったが、平成9年は10尾の採捕であった。
- ・ 6月稚魚沿岸部曳き網(毎週1回)
平成8年6月の主にヨシ巻き方式による1曳網当たりの平均採捕尾数は91.1尾(全湖14地点)であったが、平成9年は3.5尾(全湖16地点)であり、前年比0.04倍の採捕量であった。前年に比べて産卵量、産卵河川が増加しているにもかかわらず、6月に稚魚の採捕量が少なかったことから、仔稚魚期の減耗率が高かったものと考えられる。

3. 餌料調査

- ・ 仔稚魚調査において同時に餌料プランクトン採集調査を行った(結果とりまとめ中)。

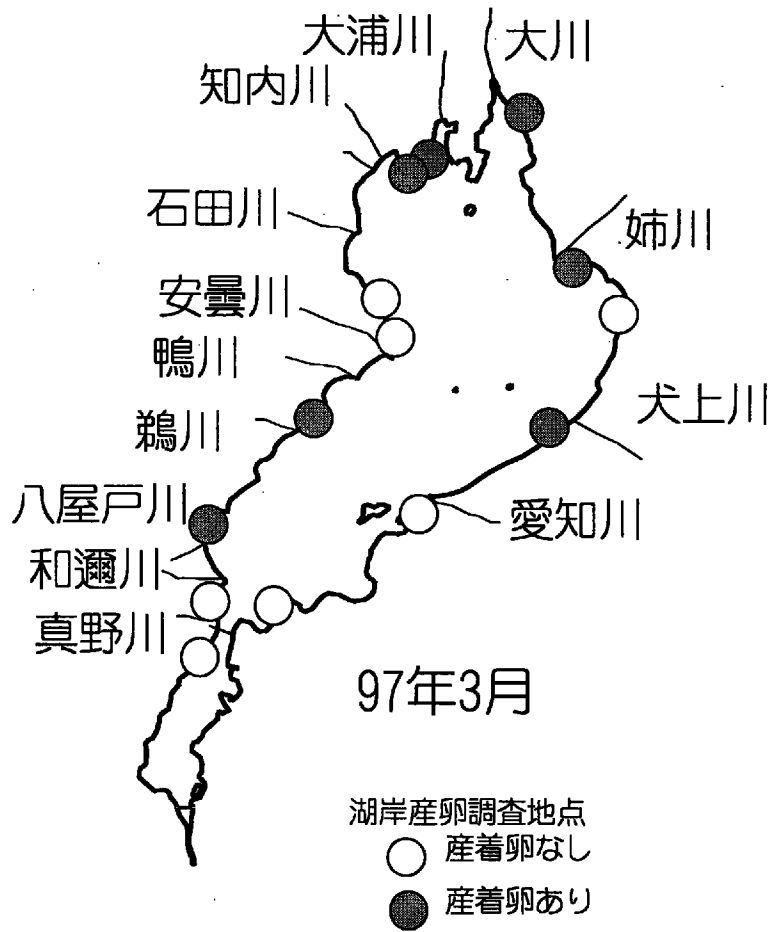


図1 フカサギの産着卵が確認された河川および湖岸.